

本市では、2019年度から「こおりやま広域連携中枢都市圏（以下、こおりやま広域圏）」を形成し、公共施設の相互利用促進や、産業や環境分野等の共同研究、災害対応に係る相互支援体制の構築など、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するため、近隣の16市町村と一緒にさまざまな施策に取り組んでいます。

今年度は、新たな動きとして「警梯町のこおりやま広域圏への参加」や「広域圏と民間企業等との公民連携の取組み」を進めています。

幅広い住民の皆さまの御意見を反映させ、より一層魅力的な広域圏を目指していくため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

（政策開発課）

調査概要

○調査期間	令和3年10月21日(木)～10月30日(土) (10日間)
○モニター数	360名 (男性 164名 女性 196名)
○回答者数	332名 (男性 153名 女性 179名)
○回答率	92.2%

【分析】

＜回答者内訳（人）＞

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	総計
女性	4	11	35	63	43	19	3	1	179
男性	2	5	14	27	36	15	43	11	153
総計	6	16	49	90	79	34	46	12	332

＜広域連携への理解＞

・近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、全体の96.1%（319人）が「賛同する」と回答している。一方で、「こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）」の認知度は、65.1%（216人）であった。（問1、問2）

＜広域圏内の交流＞

・交流が深い広域圏内の市町村は、本市と隣接する市町村が上位になっている。（問5-1）
・交流の形として、「買い物や外食」53.0%（176人）が最も多く、次いで「観光地、公園、レジャー」41.0%（136人）となっている。（問5-2）

＜圏域の共通課題＞

・広域圏内で共通課題と感ずるものは、「少子高齢化」58.4%、「まちなかの賑わいが無い」46.7%、「交通の便が悪い」36.8%が上位3つで、2019年の調査から順位の変動がない。（問7）

＜連携が特に重要な取組み＞

・広域圏内で連携が特に重要な取組みは、上から「災害時等の相互支援」46.1%、「雇用機会の拡大、創業などの支援」36.5%、新型コロナウイルス等感染症対策 34.9%であり、最も多い「災害時等の相互支援」は昨年2020年度も同位であった。

【考察】

・広域連携の推進については、96.1%の方が「賛同」と回答しているが、その枠組みである「こおりやま広域圏」に関する認知度は65.1%であることから、「こおりやま広域圏」について、市の広報紙、テレビの活用など効果的な方法を検討しながら周知の強化に努めていく。

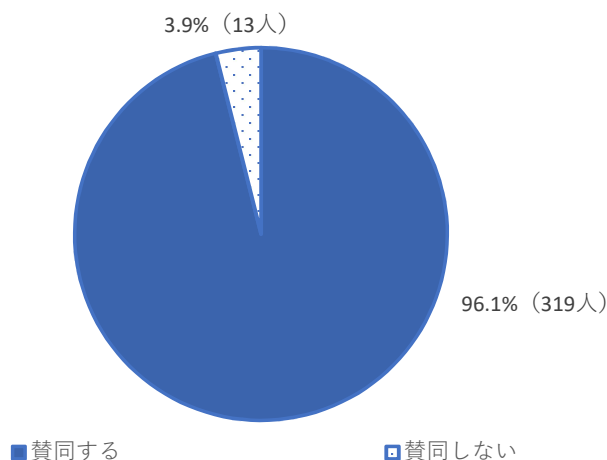
・全体としては98.7%が、こおりやま広域圏の市町村と何らかの関わりをもっていると回答しており、市町村間で双方向的な交流が行われている。

・中枢都市（郡山市）の役割については「圏域全体の発展のけん引」という意見が多い。一方、連携市町村の役割については「市町村の強みや特性の発揮、魅力のPR」といった回答が多く見られ、地域の特色を生かした連携への参画が求められている。

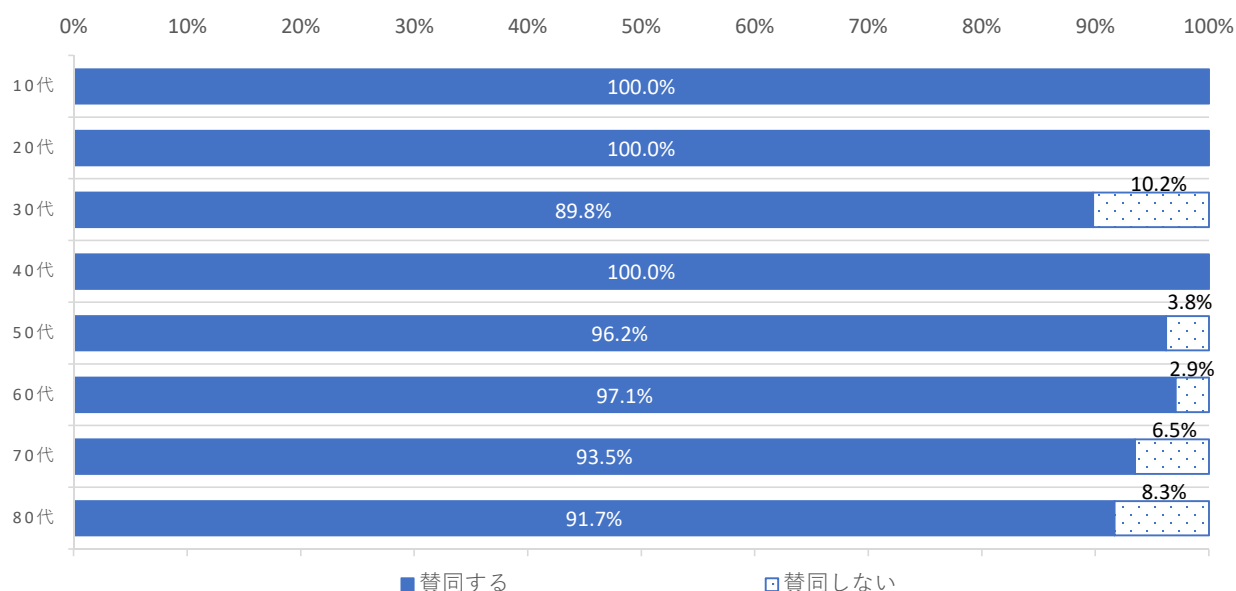
※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

問1 人口減少・少子高齢社会においても活力ある社会経済を維持するため、近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、どのように思いますか？（1つ選択）

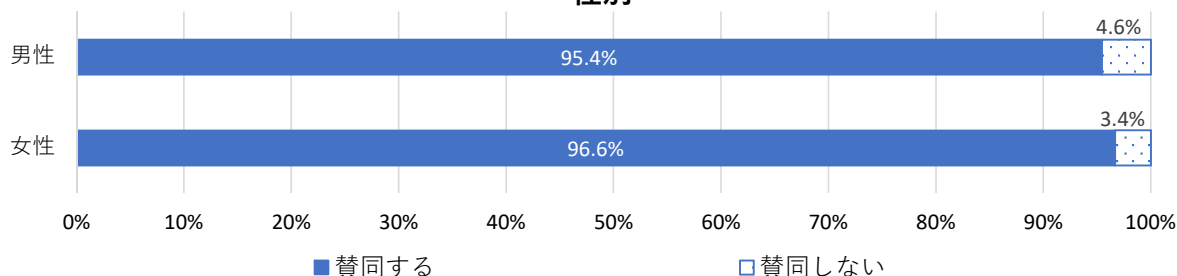
（回答者：332人）



年代別



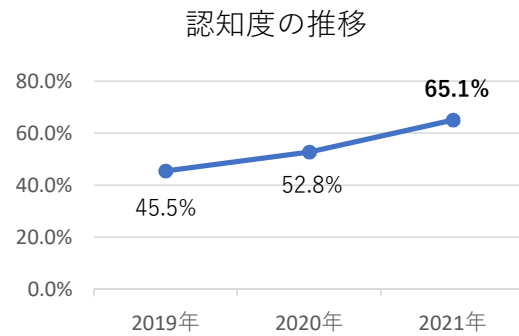
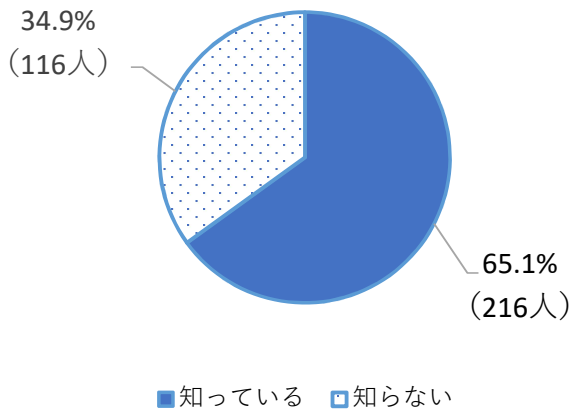
性別



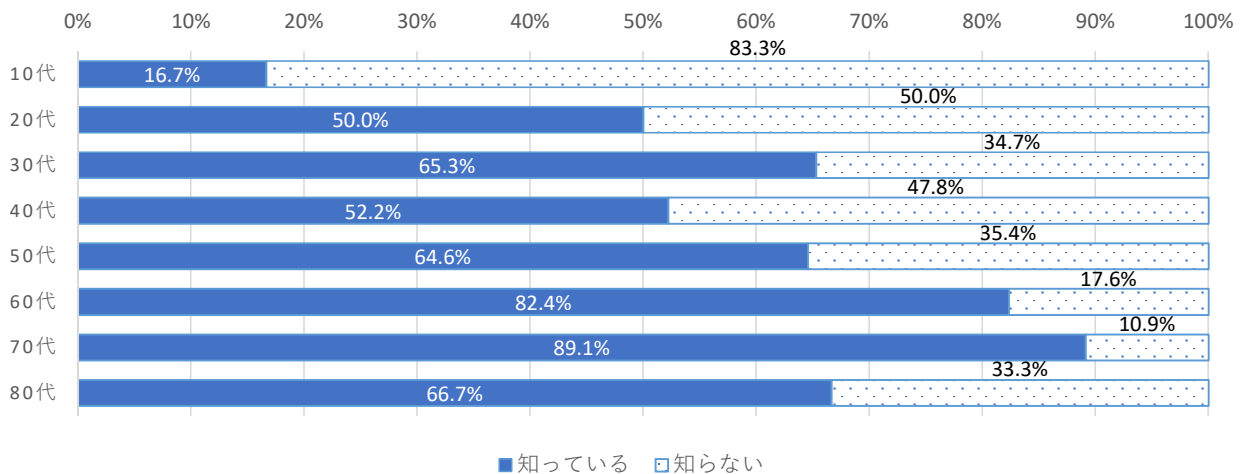
近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、全体の96.1%が賛同すると回答した。年代別に見ても、全年代において85%を超える方が賛同と回答しており、特に10代、20代及び40代では100%となっている。また、性別でも男女差はほとんどなく、「広域連携の推進」については、概ね理解を得られている。

問2 「こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）」について、ご存じですか？
（1つ選択）

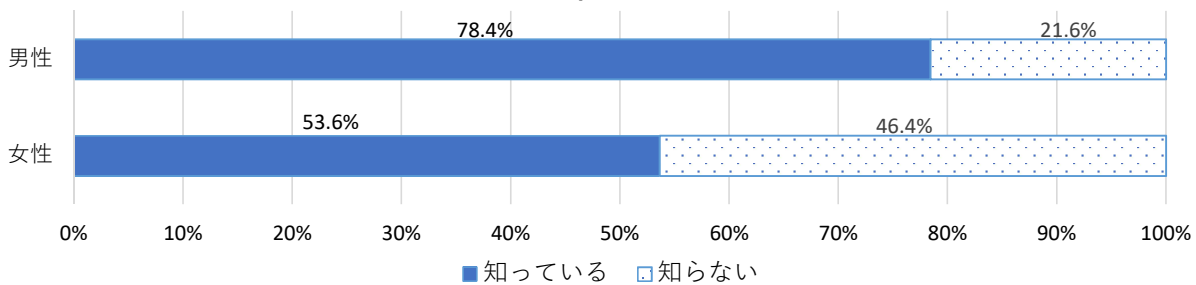
（回答者：332人）



年代別



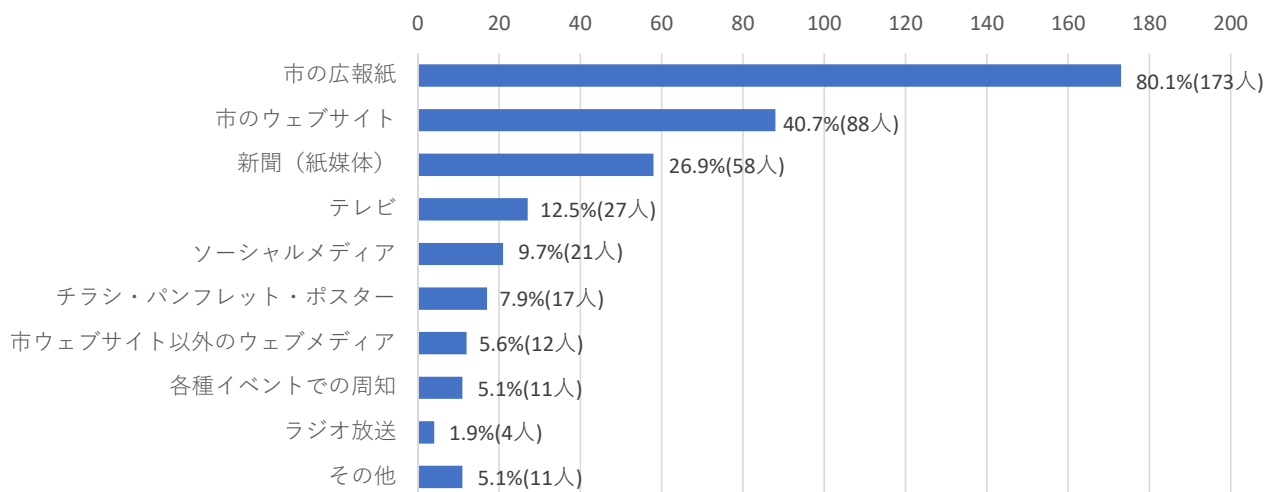
性別



こおりやま広域圏の認知度について、全体の65.1%が「知っている」と回答し、前回調査と比べると、認知度（知っている）は12.3ポイント上昇している。
年代別では、70代の89.1%が最も高く、10代の16.7%が最も低い。
男女別では、男性の方が女性よりも24.8ポイント認知度が高かった。

問3 問2で「知っている」を選択した方にお伺いします。どのような方法で知りましたか？
(3つまで選択可)

(回答者：216人)



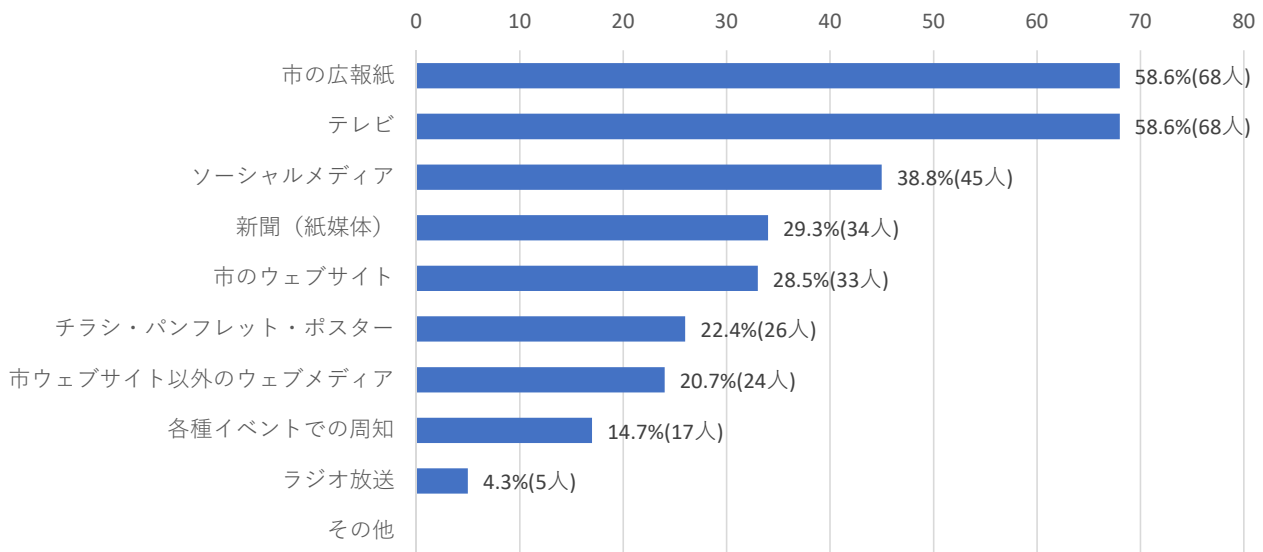
「その他」を選択した方の主な意見

- ・あさかの学園大学
- ・まちづくりアンケート

こおりやま広域圏を知った媒体としては、「市の広報紙」が80.1%と最も高く、次いで「市のウェブサイト」40.7%、「新聞（紙媒体）」26.9%となっている。
相対的に、デジタル媒体よりも紙媒体からこおりやま広域圏の情報を得ている方が多い。

問4 問2で「知らない」を選択した方にお伺いします。周知を強化するためには、どのような方法に力を入れてほしいと思いますか？（3つまで選択可）

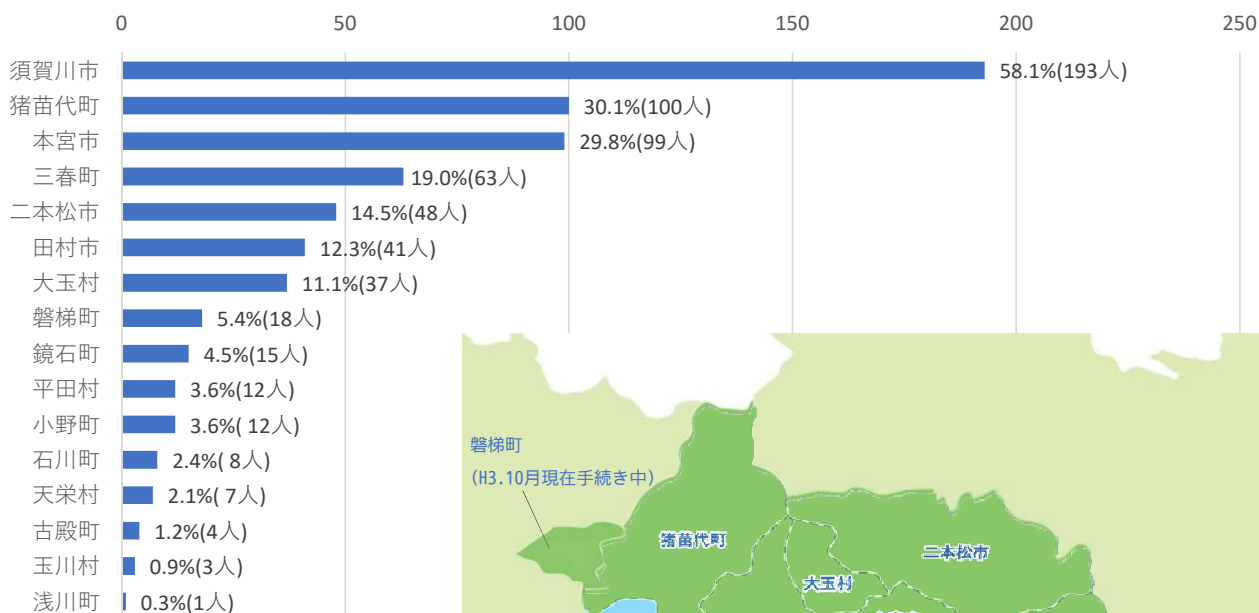
（回答者：116人）



周知を強化するための方法としては、「市の広報紙」と「テレビ」が58.6%と同率で最も高く、次いで「ソーシャルメディア」38.8%となっている。
メディア媒体、紙媒体ともに需要が高いことがうかがえ、さらなる有効活用を検討する必要がある。

問5-1 あなたは、現在、広域圏内のどの市町村と行き来するなどの交流が深いですか？
(2つまで選択可)

(回答者：332人)



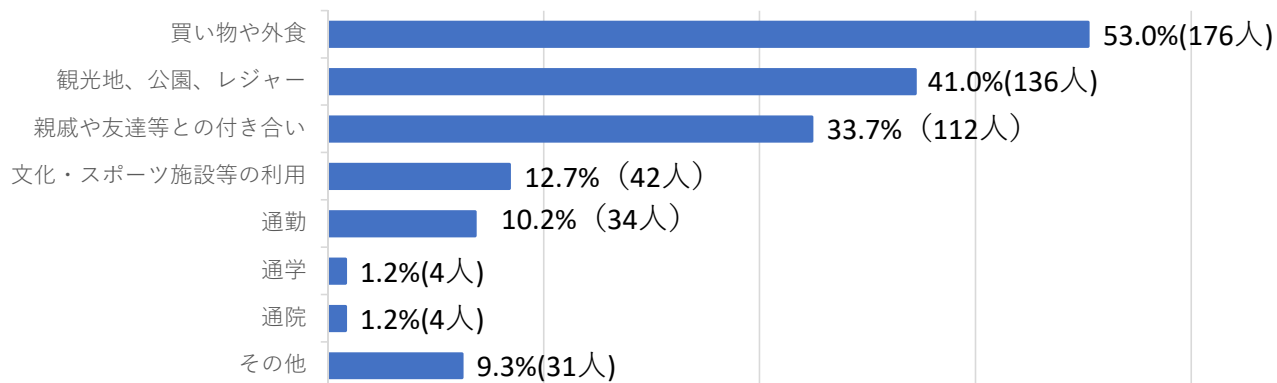
<参考：圏域市町村の位置関係>

交流が深い広域圏内の市町村として、「須賀川市」が58.1%で最も多く、次いで「猪苗代町」30.1%、「本宮市」29.8%、「三春町」19.0%と本市と隣接する市町村となっている。なお、最も少ない市町村は「浅川町」で0.3%であった。

全体としては98.7%が、こおりやま広域圏の市町村と何らかの関わりをもっていると回答しており、市町村間で双方向的な交流が行われているといえる。

問5-2 問5-1で選択した市町村と、どのような交流をされていますか？
(1つの市町村につき2つまで選択可)

(回答者：332人)



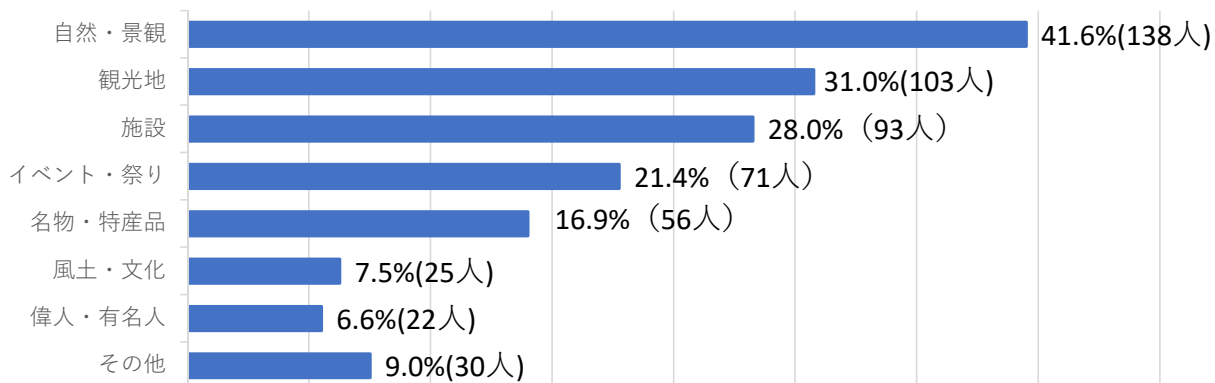
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・仕事での訪問
- ・イベントへの参加

広域圏内市町村との主な交流としては、「買い物や外食」が53.0%と最も多く、次いで「観光地、公園、レジャー」41.0%、「親戚や友達等との付き合い」33.7%の順となっている。

問6-1 こおりやま広域圏で圏域外に自慢できるような特徴は何だと思えますか？
(2つまで選択可)

(回答者：332人)



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・ 利便性
- ・ 医療体制
- ・ 人柄

<参考> 2021年得票数上位トップ3の2019年、2020年調査時の順位

	2019年	2020年	2021年
自然・景観	3位	1位	1位
観光地	4位	3位	2位
施設	1位	2位	3位

問6-2 問6-1で選択した内容を具体的に記入してください。

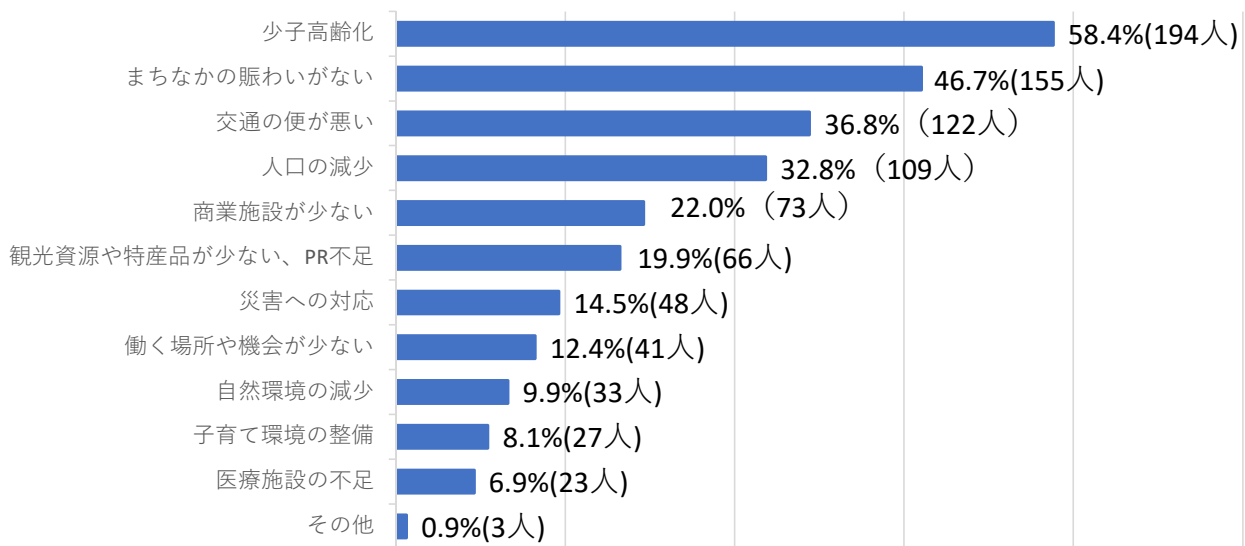
(回答者：332人)

・分類別の具体的な内容（主なもの）

■自然・景観	山（磐梯山、安達太良山 等）、湖（猪苗代湖、羽鳥湖 等）、あぶくま洞、布引高原、行事ヶ滝、三春ダム、紅葉、蕎麦の花 等
■観光地	山（磐梯山、安達太良山 等）、猪苗代湖、滝桜、温泉（磐梯熱海温泉、岳温泉）、須賀川牡丹園、布引高原、スキー場 等
■施設	各商業施設、集客施設（ビッグパレット、ビッグアイ（プラネタリウム）等）、公園・子どもの遊び場（ペップキッズこおりやま、カルチャーパーク、プリンス・ウィリアムズ・パーク等）、医療施設、県民の森、文化センター、屋内プール 等
■イベント・祭り	イベント（開成山公園やビッグパレットでのイベント 等）、地域のお祭り（うねめ祭り、安積國造神社例大祭、釈迦堂川花火大会、松明あかし、二本松提灯祭り 等）
■名物・特産品	日本酒、米、野菜、果物、鯉料理、各地の銘菓、 等
■風土・文化	安積疏水、一本の水路 等
■偉人・有名人	偉人（野口英世、円谷英二）、有名人（箭内夢菜） 等
■その他	交通の利便性 等

こおりやま広域圏の圏域外に自慢できる特徴としては、「自然・景観」が41.6%と最も多く、次いで「観光地」が31.0%であった。

問7 現在、こおりやま広域圏において「共通課題」と感じるのは、どのようなものですか？
 (3つまで選択可) (回答者：332人)



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・土地の値段が高い。
- ・他市町村でどんな取組みをしているのかわからない

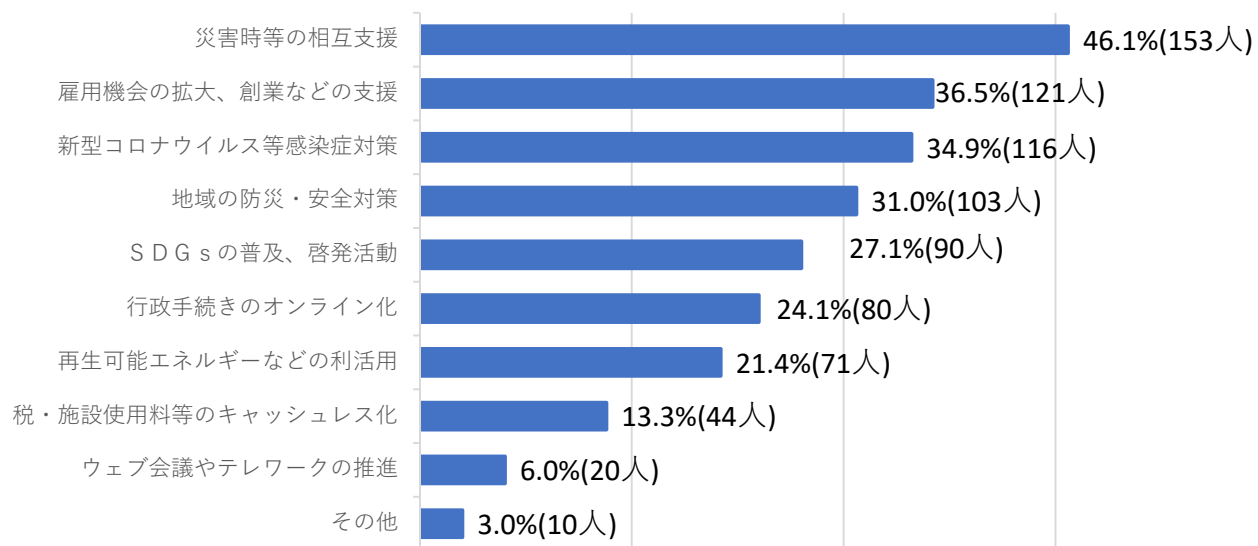
<参考> 2021年得票数上位トップ3の2019年、2020年調査時の順位

	2019年	2020年	2021年
少子高齢化	1位	1位	1位
まちなかの賑わいがない	2位	2位	2位
交通の便が悪い	3位	3位	3位

こおりやま広域圏の共通課題としては、「少子高齢化」が最も多く58.4%であり、次いで「まちなかの賑わいがない」が46.7%であった。

問8 こおりやま広域圏では、どのような取組みの連携が特に重要だと思いますか？
(3つまで選択可)

(回答者：332人)



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・医療や教育関連
- ・医療や教育関連人を集める観光地や名物、遊び場や商業施設の誘致

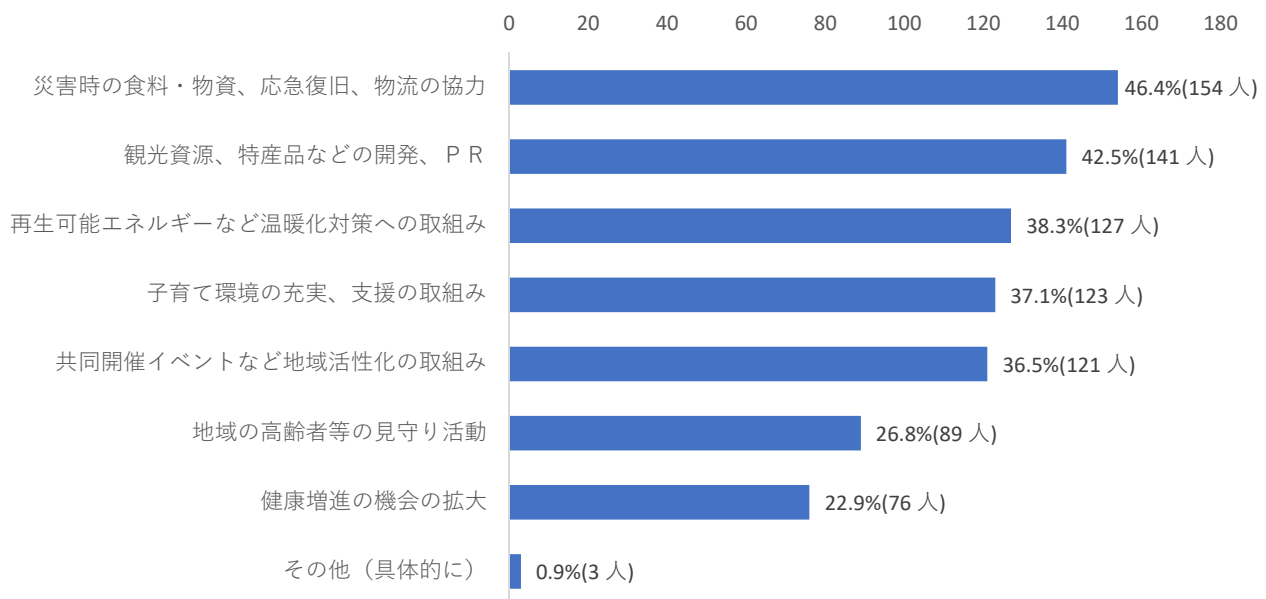
<参考> 2021年得票数上位トップ3の2019年、2020年調査時の順位

	2019年	2020年	2021年
災害時等の相互支援	5位	1位	1位
雇用機会の拡大、創業などの支援	3位	4位	2位
新型コロナウイルス等感染症対策	-	2位	3位

取組みの連携として最も重要と回答したのは「災害時等の相互支援」で46.1%、次いで「雇用機会の拡大、創業などの支援」で36.5%であった。

問9 こおりやま広域圏では、行政と民間企業や研究機関等とがどのような分野で連携を強化すると良いと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：332人）



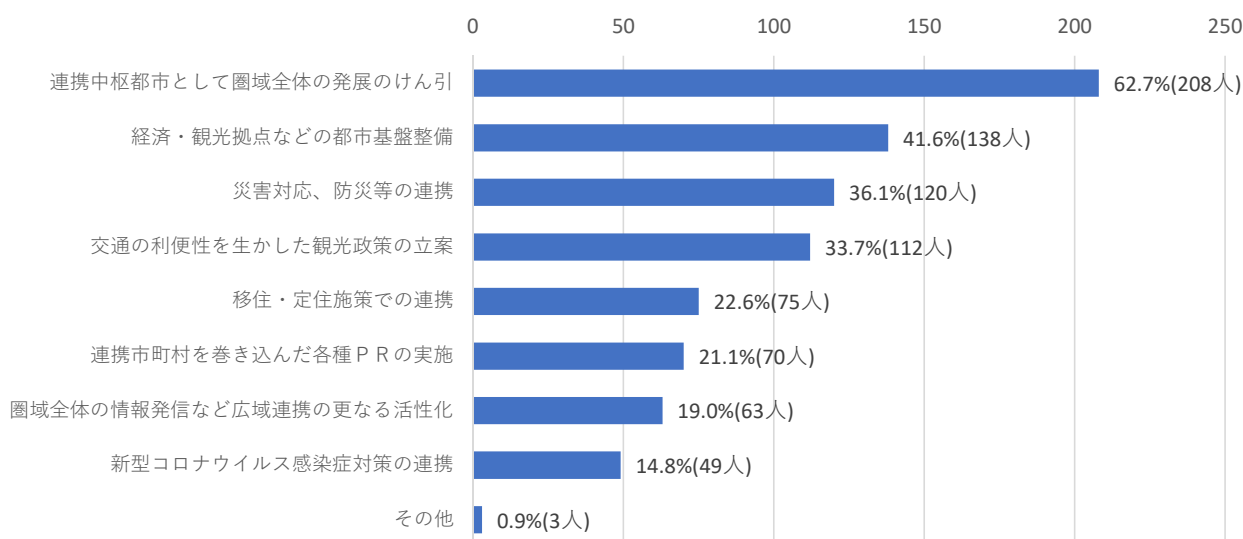
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・小中学生の心のケア
- ・生涯学習

民間企業や研究機関との連携を強化すべき分野として、「災害時の食料・物資、応急復旧、物流の協力」と回答した方が最も多く46.4%であった。

問10 「連携中枢都市」（こおりやま広域圏の中心となる都市）である郡山市が特に求められる役割はどのようなものだと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：332人）



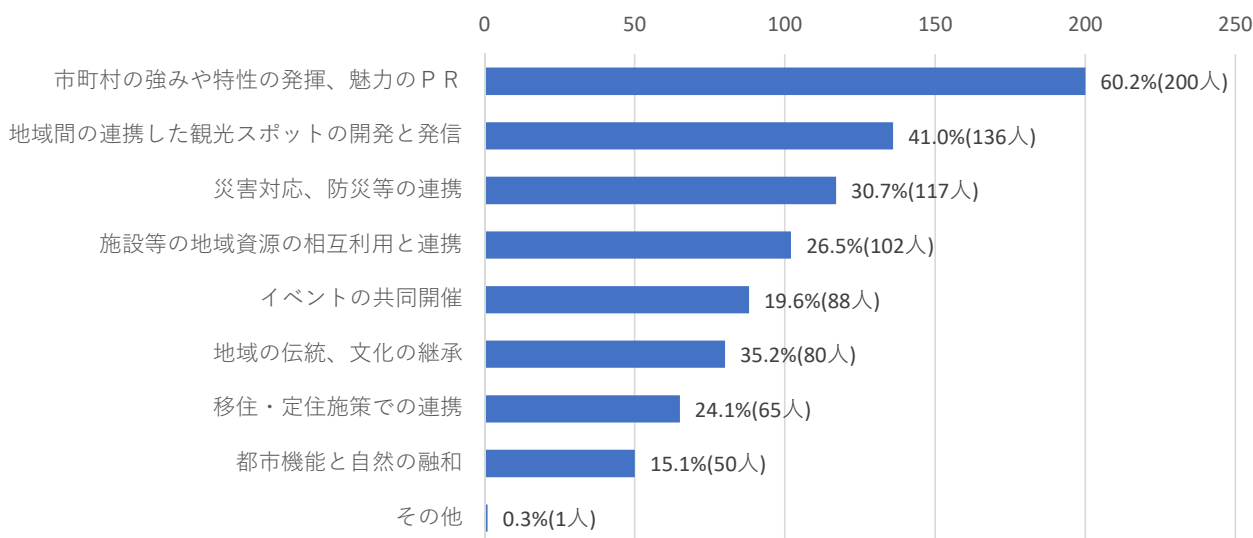
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・大病院への通院のため、広域圏からの出入りがしやすいよう交通機関の量を増やす。
- ・県庁誘致
- ・施設の拡充

「連携中枢都市」である郡山市が特に求められる役割として、『圏域全体の発展のけん引』と回答した方が最も多く62.7%であった。

問11 郡山市以外の連携の各市町村に求められる役割はどのようなものだと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：323人）



郡山市以外の連携市町村に求められる役割について、「市町村の強みや特性の発揮、魅力のPR」が60.2%と最も多かった。

問12 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

（主な意見）

■ 連携のあり方について

・コロナ禍の中、連携・交流は難しい所もありますが、オンラインも含め、非接触の連携も必要になるかと思えます。（50代・男性）

・広域でやらなければならないこと、広域でやることによって効果の高いものを進めていくということだとは思いますが、強力なリーダーシップがないと、まとまるものもまとまらないと思う。連携中枢都市の役割に成否がかかっていると思う。加えて、広域でやることによってのメリットを行政だけでなく、その市町村民にもわかってもらう広報の役割も大事に思う。（40代・女性）

・少子化、人口削減、人口の集中と、以前とは、生活環境が変わっていると思うので、大局的な地域の連携が必要だと思えます。（60代・男性）

・各市町村が広域連携によるメリットを明確にし評価する必要があると思えます。これらの施策が相互利益のために有用であることを望みます。（40代・男性）

■ 産業経済、都市機能の向上について

・広域圏の強みとして再生可能エネルギーや産業等の分野に注力してほしい。（60代・男性）

・全体の人口が高齢化し、減少化するのが目の前に迫ってきているので、生活基盤をコンパクトにして中心部に集める対策や移住促進をする。（70代・男性）

・自家用車以外でも行き来がしやすい公共交通があれば良いなとは思っていますが、利用者を増やす取組も物凄く頑張らないと存続できないでしょうから難しいところですね。（50代・女性）

・郡山市をPR出来る施設の整備と更なる活用。（けんしん郡山文化センターの更なる活用、及び具体的には浮かばないが、人を呼べる施設の新設等）（70代・男性）

・少子高齢化が進むにつれて、だんだんと住んでいる人が少なくなっている傾向にあると思えます。もう少し、魅力的な街づくりや経済対策をして活気のある市にしてほしいです。（30代・女性）

■ 広域圏の認識と情報発信について

・まだまだ「こおりやま広域連携中枢都市圏」は市民に知られていないのでPRもお願いしたい。（70代・男性）

・広域圏として互いをフォローし合える関係性を築いていくことは大変良いことだと思います。圏域内のメリットを更に発信していくことが必要かもしれません。（30代・男性）

・広域圏の取り組みが興味関心がある層にしか届かないような気がする。これから人口減やさまざまな問題を抱えていく中で連携できることをさまざまな年代に知ってもらう必要があるのではないかと。（30代・女性）

・広域圏で、魅力を発信出来たら、観光や移住に繋がると、大いに期待しています。（60代・女性）

■ 住民サービスの向上について

・広域圏は子どもの数が減り、学校の廃校や統合が増えていると思います。廃校になった学校を郡山市の学校が活用し、自然学習や宿泊体験などで利用できると良いと思います。(40代・女性)

・あさかの大学はこおりやま広域圏の人が利用できます。各こおりやま広域圏主催のイベント・講座も共通で利用できるよう希望します。(60代・男性)

・広域圏のエリアがますます増えてきたので、オンラインなどで若手中心に活性化する議論を経て、実施する仕組みを考えたら楽しいと思う。アウトドアのイベントをシリーズ化して毎月各地を巡回するなど、行ってみたいです。(50代・女性)

・広域圏内での利便性の向上が大事です。行政手続きの簡素化と相互乗り入れ、施設の相互管理等、共同で実施していくべきかと思われます。(50代・男性)